

平成28年度第1回川崎市政策評価審査委員会 摘録

- 1 開催日時 平成28年11月1日（火）18時00分～20時00分
- 2 開催場所 川崎市役所第3庁舎15階 第2会議室
- 3 出席者 委員 中井委員長、川崎副委員長、窪田委員、黒岩委員、松井委員、
米原委員、井上委員、長野委員、松本委員
福田市長（開会のあいさつ後に退席）
加藤総務企画局長
総務企画局都市政策部 北部長
総務企画局都市政策部企画調整課 阿部課長
総務企画局行政改革マネジメント推進室 吉田担当係長（前田担当課長代理）
財政局財政部財政課 神山担当課長
事務局 総務企画局都市政策部企画調整課
今村担当課長、菊池担当係長、小西職員

4 議 事

- (1) 委員長及び副委員長の選出
- (2) 川崎市総合計画について
- (3) 政策評価制度について
- (4) その他

5 傍聴者 なし

6 会議内容

議事（1）委員長及び副委員長の選出

委員長については、互選により中井委員、副委員長については、委員長の指名により川崎委員が選出される。

中井委員長）東工大の中井と申します。私は、総合計画策定の有識者会議のメンバーという経緯から、委員長の推薦を受けたが、その有識者会議の中でも、今後の進行管理については話題になっていた。大きな都市であり、政策の数も多くあることから、評価についても複雑にならざるを得ない部分もあると思うが、市長の話でもあったとおり、取組の成果をしっかりと評価するという視点を意識していきたい。その点に留意しながら円滑な議事とともに、しっかりとした議論をしていきたいと考えているので、3年間という長い期間であるが、よろしく願いしたい。

川崎副委員）東洋大学の川崎と申します。私は、川崎市との付き合いが長く、大学院の頃か

ら、当時総合企画局都市政策部に専門調査員というポストがあり、市の実際の仕事について勉強しており、たまたま行政の評価についても、川崎市に限らず他の自治体でも携わっている。川崎市は事業の数も多く、政令市としてやるべき仕事も多く大変だが、面白い取組も多いと思っている。前回の評価委員会でもお世話になっており、その当時の評価の視点は分かりやすさがメインであり、そういった意味でも一般市民でも分かりやすい文章に改善されてきたと思っている。今回は新しいステージということで微力ではあるが御一緒させていただきたい。

議事（２）川崎市総合計画について

議事（３）政策評価制度について

事務局から議題（２）・（３）に関連する資料について説明

中井委員長）本日の資料２が中心になると思われるが、話題が多いため、まず資料２の１から７ページまでについて、意見や質問があればお願いしたい。

中井委員長）内部評価は資料３の評価シートのとおり、毎年行っていくということであるが、外部評価については２年に一度ということになるのか。

今村担当課長）基本的に４か年計画である第２期・第３期の実施計画では、中間・総括として２年に一度外部評価を行うが、第１期実施計画は２か年計画であることから、中間・総括評価を２年続けて行うことになる。

窪田委員）日本の全体的な流れとして、きちんと評価をして施策に活かしていくということではあるが、川崎市の中でこういう評価をしようと思った理由や、改善が図られる具体的な事例やイメージはあるのか。評価をすることでこう改善していくと思った根拠やエピソードがあれば教えていただきたい。

今村担当課長）前総合計画での政策評価委員会については、市民の分かりやすさの視点到に注力していたことから、評価結果を改善に活かしてきれていないのではないかという反省があり、今回策定した総合計画では、成果指標を立てて、新たな評価制度を構築するに至った。

川崎副委員長）前総合計画の評価シートは、市民には分かりづらい表現が多々あり、そこから改善しないと先に進めないという状況であった。前総合計画の政策評価委員会では、そういった分かりにくい点を改善していったが、具体的にそこでの評価が直接目覚ましい変化につながったかということ、そこまでには至っていないと思われる。しかし、とにかくコミュニケーションに使えるシートにしていこうという大きな目

標があり、それぞれの施策の中にぶら下がる個別計画があるが、その中で分かりやすさを浸透させたという点については、一定の貢献があったのではないかと思う。

窪田委員) 前回の評価では、市民の分かりやすさを前面に押し出していたということで、今回の評価ではどのように変わったのか。

中井委員長) 前回は分かりやすさを視点にしていたが、今回はアウトカム評価をきっちり行って政策等に反映させるという、元々の評価の趣旨に沿った評価になっているという認識でよいか。

今村担当課長) そのとおりである。

松井委員) 今回の評価について、当初の目的である評価結果を政策につなげるという点は良く分かるが、政策評価自体をどういう目的で行うのか。財政構造上の見直しに反映していくためなのか。それとも業務改善につなげていくことで、無駄・無理な部分を常にチェックしていく行政効率を高めるためなのか。個人的には、財政は安定しているし、業務改善も比較的に進んでいるように見えるが、今回の評価はどちらの視点で行っていくのか。

今村担当課長) 決して川崎市も財源が潤沢という訳ではなく、予算編成作業、職員配置や業務改善等を含めて、評価の結果を反映させていきたい。また、第2期実施計画にも活かしていきたい。

中井委員長) 資料2の6ページに記載されているとおり、行革部門と財政部門と連携して行っていくことになっているが、一義的にはこういうところに反映されるということではよいか。

今村担当課長) そのとおりである。

米原委員) 評価の方向性について、無駄カットのために評価を行うのか、説明責任のために評価を行うのか、改善のための評価にするのか、改善のためなら、お金が掛かってもこうした方がいいという考え方もあると思うが、そのあたりは、こういう方向を目指したいという青写真はあるのか。

今村担当課長) 今言われたような視点は、すべて意識をして評価をしていただきたいと考えている。先ほども話したとおり、潤沢にお金がある訳ではなく、改善のためだったら、いくらでも予算を掛けていいという訳ではないため、そういったところを踏まえた上で、説明責任についても果たしていきたいと考えている。

米原委員) 施策の中に事務事業が束ねられているが、事務事業間の流動性・横のつながりはどの程度を想定しているのか、効率性を上げるため、無駄をカットするため、この事務事業を統合・廃止するなどの提案もあると思うが、見直す場合、事務事業をどの程度変更することができるのか。

今村担当課長) 基本的には、施策をどう展開すれば、より良い結果が得られるかという点で御意見をいただきたいと考えているが、事例によっては、事務事業を統合した方が効率的というものもあると思うので、そういう点で御意見をいただくことも可能である。

中井委員長) 私の方から、今の議論の関係で確認したいことがあるが、この委員会は基本的には内部評価を行政側で行っているので、その評価が適切に行われているかどうかを見るというのが、大きな役割であって、委員から発言があったようにこの政策が重要だから、もっとお金を付けた方がいいというのは、この委員会の外の話であり、それは市長や企画部局などで政策的に判断されることであって、今のようなアドバイスは我々の権限の外の話である。まずは内部評価がきちりとできているかを確認し、その上で、もっと効率的にできないか、もっとお金のかけ方を改善した方がよいなどの意見を議論する場であると私は認識している。

中井委員長) この委員会は政策的な判断をする場ではないということを、最初に改めて確認したい。この政策は他の政策より重要という議論は、市役所内部や議会で行うことであるということをまずは理解してもらいたい。

井上委員) 政令市の中で、行革や業務改善が行われているが、川崎市はどういう立場なのか、それが分かれば、どのように改善すべきか、意見を述べることができるが、そういった資料はないのか。

吉田担当係長) 平成14年度から行革の取組を進めてきて、職員数については、3,000人を削減してきた。これまでは、量の改革を中心に進めてきたが、現在の市長は市民サービスや職員の質の向上などの質的改革も推進している。こういった過去の行革の経緯については、次回の委員会の資料として提供させていただきたい。

今村担当課長) 資料1の川崎市総合計画の495ページに、総合計画の策定に際して行った市民アンケートを掲載しており、当該アンケートでは、同時に他の19政令指定都市にもインターネットを通じて同様のアンケートを実施し、他政令市と川崎市の市民実感の違いをまとめている。

長野委員) 専門的目線・市民目線で成果を評価して、PDCAサイクルを実現するというこ

とは大変良いと思うが、前回の分かりやすさの評価から手法を変えた根拠として、例えば市民にアンケートを取り、その結果を踏まえて変更したなど、根拠となるような定量的なデータはあるのか。

今村担当課長) アンケートなどは取っていないが、新たな総合計画を作る中で、市民の分かりやすさだけでなく、成果指標を用いた客観的な進行管理を行うことが望ましいという結論になり改善を行った。

川崎副委員長) 資料3の事務事業評価シートの必要性、有効性について、行政内部で評価を行うと、ほとんどの部局が必要性・有効性はあると回答すると思うが、そうした判断が時代変化に対応しているかという点については、内部評価だけでは不十分な部分があると思う。そういった面については、市民目線で、もうそんな時代ではない、専門的視点で、民間でも既に行っているなど、外部評価の中で意見をもらった方が効果的である。このような背景もあり、内部だけでなく外部からも新しい風を吹き込むという、今回の評価制度になった大きなきっかけであると思われる。

長野委員) 要するに客観性を出したということか。

川崎副委員長) そういうことである。

中井委員長) 行政が取組を行った結果、その後どうなったのかということの評価することである。私は、都市計画部門が専門であるが、例えば道路をどれだけ整備したのかではなく、どれだけ渋滞が減ったのかという視点である。こうした大きな流れで、川崎市の評価制度を切り替えたという認識でよいか。

今村担当課長) そのとおりである。また、平成26年度に行った前総合計画の政策評価委員会では、成果指標の活用や効果的なPDCAサイクルの実現を図っていった方がよいなどの意見が出されており、そうした意見も反映している。

長野委員) それまではどういった評価を行っていたのか。

今村担当課長) 資料3の5ページ以降に、前総合計画の評価シートを掲載しているが、文字を書く量が多く分かりにくい部分があり、成果指標を定めていなかったのもそういったところを改善している。

井上委員) 私は川崎に転居して13年になるが、市外から転入してきた立場から見ると、色々な取組を行っていると思うが、他の都市と比べて、常に2番目になっている。昨日でハロウィンパレードも終わったが、どちらかという現在は渋谷が注目されてお

り、最初に注目されていた川崎にスポットが当たっていない。市民としては、市の多くの取組にそういったところを感じるので、取組を頑張っているならば、目で見えるような評価の方法に変え、市民としては良いところに住んでいるという認識を持てるようなものにしてほしい。

中井委員長) 評価はネガティブチェックが多いが、良くできた点は、しっかりと評価していくということだと思う。

黒岩委員) 評価する上で客観的なデータも重要であるが、私は地域包括ケアシステムという制度実施の推進に関わっているが、そこでの経験から発言したい。見守り支援センターを各区に設置し、地域にこれだけ職員が出て行っていますなどの客観的なデータだけでは、それがどれだけ市民に浸透しているかがわからない。制度政策を評価する上では市民の実感是非常に重要であるため、市民実感のアンケートも参考としてではなく、評価の枠組みの中に入れて検討できればと良いと感じた。

今村担当課長) 総合計画では、第2階層に市民の実感指標を設けており、今年度も市民実感のアンケートを取る予定であり、次の委員会には間に合わないが、7月の全体会では結果を委員会にも報告し、施策との関係の中で御意見をいただければと考えている。

中井委員長) 総合計画は本年の3月に策定したものであり、まだ開始して半年であるため、効果が出ていないものも多くある。そうしたことから部会の進め方を工夫して行わないと、実質的な評価ができない可能性もあるため、事務局案として示されている、資料2の8ページで部会ごとに作業を進めてはどうかという点と、3つの部会に分けて作業を進めるという点について、御意見を伺いたい。

中井委員長) 特に意見がないようであるならば、事務局案のとおり、3つ部会で評価の作業を行うということにしたい。それから、部会の進め方についても、今日の委員会で決めていきたい。進め方については、資料2の8ページに書いてあるとおり、関係局のプレゼンを経て部会で審議する方式になっている。また、部会で審議する施策についても、73あるすべての施策を審議することは難しいため、重要な施策を絞って選定し、部会で審議していくということであるが、委員会の進め方や評価の対象施策を絞る視点等について、御意見を伺いたい。

窪田委員) 部会2は空間をつくることになり、その評価や成果は、長期スパンで見ないと分からない部分もあり、例えば、交通渋滞しているので道路を広げたが、その後事故が多くなったということもあり得る。策定したばかりの総合計画の施策を指摘するよりも、部会2については、過去(20~30年前)のものが、今どういう風に関

わっているのか、示してもらった方がいい。長いスパンで空間を変えることでどう変わるのかなど議論することで、部会としての評価の基準も整理され、全部の施策を評価しなくても、いくつか新しい取組や変えようとしている施策など、対象を絞って評価できるのではないか。

中井委員長) 今の施策評価シートでは対応できていないと思うが、本当に評価するのは計画期間の取組ではあるが、計画期間より前の部分を見ないと評価できない部分もある。これは部会2に限らずあると思う。

今村担当課長) 選定した施策によっては、関係局のプレゼンの中で、そういった部分を御説明させていただくなど工夫していきたい。

米原委員) 私は教育行政が専門であるが、教育や福祉の対人サービスはプログラム評価という考え方があるが、インターベーションした後の成果を見るのではなく、インターベーションする前の段階で構想されているプログラムについて、目的に対して合理的であるかというセオリー評価をする、PDCAのPの部分から評価が始まっているという考え方がある。教育などは、始まってから5年経過して結果ダメだったという形で済む話ではないという文脈であるが、そういう観点からすると、総合計画が始まったタイミングでの評価は、プログラム評価的にはいいタイミングであり、セオリー評価に近い形での評価をするのであれば、ベースラインとなる調査や施策を行う上での目的と手段が合理的に整合しているかどうかなどを議論できる情報が必要になる。そういった評価の特性にあった施策を代表施策として選んでいただくとプログラム評価の視点での評価が可能となる。

今村担当課長) 委員の意見も参考にして、評価対象施策を選定していきたい。

中井委員長) 対象施策は、企画部門と担当局で相談して選定するのか。

今村担当課長) 基本的に事務局で、客観的な視点に基づき施策選定候補案を25程度抽出し、次の部会で提示していきたい。

松本委員) 子育てに関しても、中原区では子育て世代が増えてしまい、今までと全く違う状況になっている部分もあり、負の特徴も出てくると思うので、そういった部分も勘案した評価を行ってほしい。

松井委員) 資料2の8ページの「部会の流れ」③で意見をまとめているが、部会としては、何をどうすればよいのか。

今村担当課長) 今想定しているものは、部会では施策評価シートを踏まえて、内部評価結果の妥当性や施策の方向性について意見をいただくが、アウトプットのイメージとしては、そういった視点についてペーパー1枚程度でまとめていただきたいと考えている。具体的には次回の委員会でアウトプットイメージを提示して意見を伺いたいと思っている。

松井委員) 例えば、資料3の4ページでは、内部評価として施策の進捗状況の達成区分があるが、委員会としても同じような達成区分を付けるのか。

今村担当課長) 事務局の考え方としては、委員会で達成区分を付けるのではなく、文章で考え方を示していただくことを想定している。

川崎副委員長) ちょっと分からなくなっているが、プランやプログラムの中身に踏み込んで評価をすると深みにはまる可能性があり、この委員会は施策評価が中心であり、個々のプログラムを評価する訳ではなく、それらがトータルで施策にどの程度インパクトを与えているかを評価しなくてはいけないということである。あまり個々の部分に踏み込むと時間ばかりが経過してしまうおそれがあるため、あくまで施策評価であるという視点を意識した方がいいと思われる。

今村担当課長) そのとおりであり、施策単位でそれにつながる事務事業の状況を踏まえて御意見をいただきたいと考えている。

中井委員長) やって見ないと分からない部分もあり、本当は試験的に部会を行ってみるのが一番だと思うが、時間もないので、次の委員会では事務局から部会のシミュレーションができるような資料を提供してほしい。各委員が評価に持たれているイメージが共有しきれていない部分があると思うため、次回の委員会では、最低限のところを共有できるようにしたいと感じている。

今村担当課長) イメージの共有ができるような資料を次回の委員会で準備したいと考えている。

黒岩委員) 次回の委員会では、事務局が25程度の施策を抽出して、その中から委員会で選定するということであるが、選定に際してそれに関連する施策評価シート等を見せていただけるのか。

今村担当課長) 年度の途中であるため、内部評価結果をすべてを出すことは難しいと思う。

中井委員長) 今後具体的にどの部会に所属するかによって、委員の考え方にも影響を与える

ため、できればどの部会に各委員が所属するかについても、決めてしまいたいと思う。部会の構成を承認された場合を踏まえて、事務局が部会に所属する委員の構成案を作成しているとのことであるので、それを配っていただきたい。

今村担当課長) 学識の方については、専門分野に応じて選んでいる。市民委員の方については、事前説明で興味のあるような分野を選定させていただいている。

中井委員長) 特に意見がないようならば、事務局案の部会の委員構成にしたいと思う。ここから先は、部会に所属される委員も見えているので、具体的な施策もイメージしながら議論してほしい。また、部会長はそれぞれの部会で決めてほしい。

米原委員) 3年の経年変化を見ていき、成果の見える化をめざすということであるが、市民満足度調査と各施策の関係についてどうなっているのか。各部会で決まった評価の結果を裏付けるようなデータが市民満足度調査から得られれば対外的に説明がしやすくなる。

今村担当課長) 市民満足度調査については、総合計画の中で市民実感指標として位置付けているので、このアンケートを経年的に取っていく。これは施策の上に位置付けられているので、トータルの実感指標として関連している。

長野委員) アンケートの母数と、どういう形式で行ったかについて教えていただきたい。

窪田委員) 市民の実感アンケートについて、政策 1-1 の「災害に強いまちづくりが進んでいると思う市民の割合」が現状値で 15.6%になっているが、この方々が健康的な人で、木造密集市街地の中でも一人で逃げることができる人なのか、それとも健康的でない人が思っているのかによって感じ方も違ってくる。誰もが幸せを感じることができるという視点においては、その施策等として、一番届かなければいけない人や弱者の声や実感をしっかりと集めなければ実質的な評価ができない。基本構想に誰もが幸せを感じられる川崎をめざしと明記しているため、それをしっかりと評価できるようなデータを集めてほしい。

今村担当課長) アンケートのサンプル数については、川崎市在住の満 20 歳以上の男女 3,000 人を無作為に抽出し、回答してもらっている。回答数については、1,204 標本で回答率としては約 40%である。

中井委員長) 窪田委員の意見のとおりであるが、対象が明確な高齢者の施策や万人を相手にする防災などの施策によって、把握したい対象が違うので、集計の方法を少し工夫してもらおうことが大事である。

米原委員) 無作為で抽出しているのであれば、サンプリング的には問題ない。アンケート結果を分析する際に、特定の地域の高齢者を対象とした情報がほしいのであるならば、全体の中から必要なサンプルを抽出すれば問題ないと思う。

中井委員長) 対象集団をしっかりと把握した上で、数字を出さないと、本来の成果をきちんと把握できない場合もあるため、集計の際に工夫してほしい。

松井委員) 施策を構成している事務事業所管課は複数あると思うが、部会で説明する関係局は基本的にどこが行うのか。

今村担当課長) 基本的に施策を代表する成果指標と関連性が高い部署が、施策取りまとめ課となり説明を行う。

松井委員) 部会で審議する際に、施策の進捗状況と事務事業評価結果に不整合が生じた場合で、その不整合になっている事務事業所管課が、説明をしている施策の取りまとめ課以外の部署であった場合に、その理由を聞いても答えられないのではないか。

今村担当課長) そこは当日の運営方法にかかってくると思うが、松井委員から意見を踏まえて対応できるようにしたい。

中井委員長) 関連する人にすべて来てもらうのは難しい面もあると思うが、広範囲にわたる施策については、どの部署に来てもらうか工夫してもらいたい。

中井委員長) 最後にスケジュールの相談であるが、次回の委員会については、3月頃に開催し、評価対象施策の選定を行うとともに、5月・6月頃に部会を1・2回開催し、評価対象施策の重点的な審議を行う。その後、7月に委員会の全体会で中間評価のまとめをしたいというのが、事務局からの提案である。スケジュール的には、評価結果を予算編成や職員配置計画等に活用していく部分があるため、7月までに中間評価を取りまとめなければならない。その他、5月頃に部会を行うが、いきなり部会の審議を行うのは難しい部分もあるため、5月の部会を行う前にもう一回集まって、部会でどう評価を行うのか議論した方が良いと思うが、副委員長はどう思うか。

川崎副委員長) まだ評価の考え方について、共有が図られていないので、部会ごとに審議するよりは、全体会で議論した方がよいと思う。そういった意味では、シミュレーションできるような資料を次回の委員会で、出してもらい議論することが必要だと感じる。

中井委員長) では、次回の委員会は長丁場になるが、評価対象施策の選定だけでなく、部会でどのように審議するかという点についても、議論したいと思う。次回の委員会では、議論すべきことが多いので、今日の摘録を整理してもらい、事前に委員長・副委員長で調整をさせてもらいたい。その他、何かあるか。

井上委員) どの部署がどの事務事業を行っているのか知りたいため、市役所内の組織図や事務事業の所管課が分かる一覧がほしい。

今村担当課長) 準備したいと思う。

中井委員長) 他にも、ほしい資料があれば事務局に言ってほしい。

議事(4) その他

今村担当課長) 資料2の9ページの選定の視点を踏まえて、事務局で評価対象施策を25程度抽出し、選定した理由も明確にした上で、次回の委員会に提示したい。

中井委員長) 今の事務局の説明について、何か意見等はあるか。特にないようならば、本日の委員会の進行を事務局にお返しする。